

前回意見のうち、継続協議とされた事項 [ 総計第 1 章～第 3 章 ]

資料 1

	箇所	意見・質問箇所	内容	事務局の考え	委員
1	戦略 39	基本目標 1、施策番号 1	<ul style="list-style-type: none"><li>結婚支援の取り組みが 1 件しかないので、取組項目に「<b>こども誰でも通園制度</b>」をいれてはどうか？（令和 8 年度から本格実施する制度なので目標値がしやすいのではないか。）</li></ul>	<p>※前回お示しした事務局の考えについて、以下のとおり修正いたします。</p> <p>市としては、保育環境の充実など、結婚後の不安を解消することも含めて、間接的ながら結婚も支援しているところです。創発プラン 2.0 や総合戦略には、事業費の大きなものや市として特色を打ち出したいものなどを代表して記載しております。「こども誰でも通園制度」については、国の施策で来年度から全国的に開始され<b>ますことから、市としての計画にはるもので、個別行政計画である「こどもまんなか計画」には記載しておりますが、創発プラン 2.0 や総合戦略には記載を控えておくことを考えています。</b></p> <p><b>ただし、こどもが家族以外の人との交流や、関心の広がりからの経験や成長を期待する「こども誰でも通園制度」の制度主旨は、以下のとおり施策の方針に反映してはと考えます。</b></p> <p>こどもたちが<b>さまざまな交流や経験を得ながら</b>、安心して健やかに成長できる保育・子育て環境づくりに取り組みます。</p>	合田委員 （民間保育園）
2	総計 6	将来都市像	<p>※今回提出分ですが、前回までの内容のため、資料 1 に掲載しています。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>前回にも意見として出したが、ちょうどいいまちの説明として、①便利で快適に暮らすのにちょうどいいまち、②安心して暮らすのにちょうどいいまち、③居心地よく暮らすのにちょうどいいまち、として、これに応じて基本目標の 1～3 と施策の区分・順序を整理されてはいかかが。</li></ul>	<p>「ちょうどいい」まちのすがたについてお示しした①～③については、基本目標 1～4 と直接連携しない、「ちょうどいい」まちの説明部分であるため、項目名の変更に伴い、基本目標や施策の区分や順序の見直しまでは行いませんが、ご指摘を踏まえ、以下のとおり①～③の説明部分を変更いたします。</p> <p>①地理的・環境的に「ちょうどいい」 大阪都心への良好なアクセスや小回りの利く市内の公共交通は通勤や通学の利便性を高め、また、大阪市内まで外出せずとも魅力ある商業施設が立地するなど、都会の利便性を持ちながら、里山や農地といった豊かな自然も身近に広がり、都市と自然の魅力が調和した、<b>便利で快適な</b>「ちょうどいい」まちです。</p> <p>②暮らしの質が「ちょうどいい」 安心してこどもを育てることができ、誰もが必要な学びを得て、喜びや生きがいを感じることができるまちです。誰もが自立した生き方を送ることができ、必要になった時には、適切な福祉や医療・介護サービスを受けることができます。 必要な生活インフラが充実し、それぞれのライフステージや多様な価値観<b>に添じた暮らしを送ることができるのもと、安心して暮らせる</b>「ちょうどいい」まちです。</p> <p>③人とのつながりが「ちょうどいい」 地縁によるつながりだけでなく、趣味や共通の目標による輪が広がり、出会えば笑顔であいさつを交わし、個人が尊重され、困った時には気軽に相談でき、支え合うことのできる温かさを感じられるコミュニティが形成された、<b>居心地良く過ごせる</b>「ちょうどいい」まちです。</p>	神谷委員

	箇所	意見・質問箇所	内容	事務局の考え	委員
3	総計 10	第 4 章 計画体系及び施策方針	• 第 5 次和泉市総合計画（改訂版）では、上流の将来都市像から下流の個別分野までの体系を示した図があった。このようなものがあれば、各施策がどの基本目標に分類されるかの検討がしやすいのではないか。	施策に対して、関連する分野がわかりづらいとのご指摘かと考えますので、別紙のとおり記載を追記いたします。	神谷委員
4	総計 16 戦略 47	基本目標 2 施策番号 10	• 信太山クロスカントリーの市内外・大阪府内外の参加者数を教えていただきたい。	資料 3 にてご説明します。	柳委員
5	戦略 3	第 1 章 策定の背景 2. 第 2 期和泉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括	• 総合戦略 P3 に記載のスポーツイベントの年間参加者数について、令和元年基準値 12,524 人 令和 7 年目標値 14,000 人に対して、令和 6 年度実績が 2,893 人となっており、大きく下がっている理由について教えていただきたい。	現在確認中ですので、次回ご説明いたします。	武石委員
6	総計 16 戦略 33	施策番号 10 心身の健康づくりの推進	• 健康寿命について収集が難しいという説明であったが、健康保険の利用率はビッグデータを用いて、概算を把握できるのではないか。通院していないということと、健康であるということは同じではないが一つの指標として考えうるのではないか。75 歳以上に絞って把握してはいかがか。	国の「健康寿命」の定義は前回お示ししたとおりですが、国の算出方法とは別に、大阪府では介護保険の要介護 2 以上の認定者を「不健康」、それ以外の人を「健康」とすることで、健康寿命を算出していることを確認しました。 最新値の提供が一昨年となってしまうものの、この指標であれば市町村別の算出が可能で、大阪府から各市町村別のデータが提供されているため、当該数値を活用することといたします。	坂本委員

	箇所	意見・質問箇所	内容	事務局の考え	委員
7	総計6 戦略23	第1節 将来都市 像	<ul style="list-style-type: none"><li>「ちょうどいいまち」とは、主観的な表現でどのようなものかわかりづらい。また、基本目標とのつながりも見えづらいので、「このようになりたい(目標)」⇒「そのためこれらを変えるべき(課題)」⇒「そのためにこの施策を進める(実行)」といったストーリーがあればわかりやすい。</li><li>キャッチフレーズが現在の市民だけを対象にしているように見え、内向きにすぎるように思われる。「選ばれるまち」も目指すのであれば、その想いもわかるように表現したほうがよい。例えば、和泉市の強み・良さを伸ばし、住民の満足度を向上させるとともに、市外からも「選ばれるまち」となるという想いを伝えるため、「住んでみたい」を加え、「住んでみたい、住めば住むほど好きになる ちょうどいいまち 和泉」としてはどうか。</li></ul>	資料5にてご説明します。	神谷委員
8	総計6 戦略23	第1節 将来都市 像	<ul style="list-style-type: none"><li>先日の審議会において、「ちょうどいい」が漠然として分かり難いという質問やもう少し「成長」を意識した計画にすべきという意見がありました。これらは、言葉足らずや説明不足によるものと考え。私は「ちょうどいい」の概念は本市にとって的確な概念であると考えており、概略として次のように理解している。このような説明を付記すればいかがか。</li><li>「ちょうどいい」とは、特に突出した利点や秀逸な要素を有する特徴はないものの、大半の項目において我が国の市町村の平均的水準以上を満たし、欠点がなくかつ総合点の高い(総合力に優れた)まちを実現することにより、魅力があり快適で住みやすく、人口誘引力のあるまちを目指すという意味である。欠点のない総合力の高いまちを目指すという目標は、決して消極的なものではなく、ストレッチングな目標になり得るものと考え。</li><li>学校の通知表に喩えると、5は多いが2や1もある生徒ではなく、オール4を理想としながら、4が大半で残りは3である生徒というイメージだろうか。決して目立たないが、地味に優秀な生徒ということ。オール4は平均的レベルの生徒には高い目標設定で、本市が多くの5を獲得することを目指すのは現実的ではないと考える。</li></ul>		柳委員